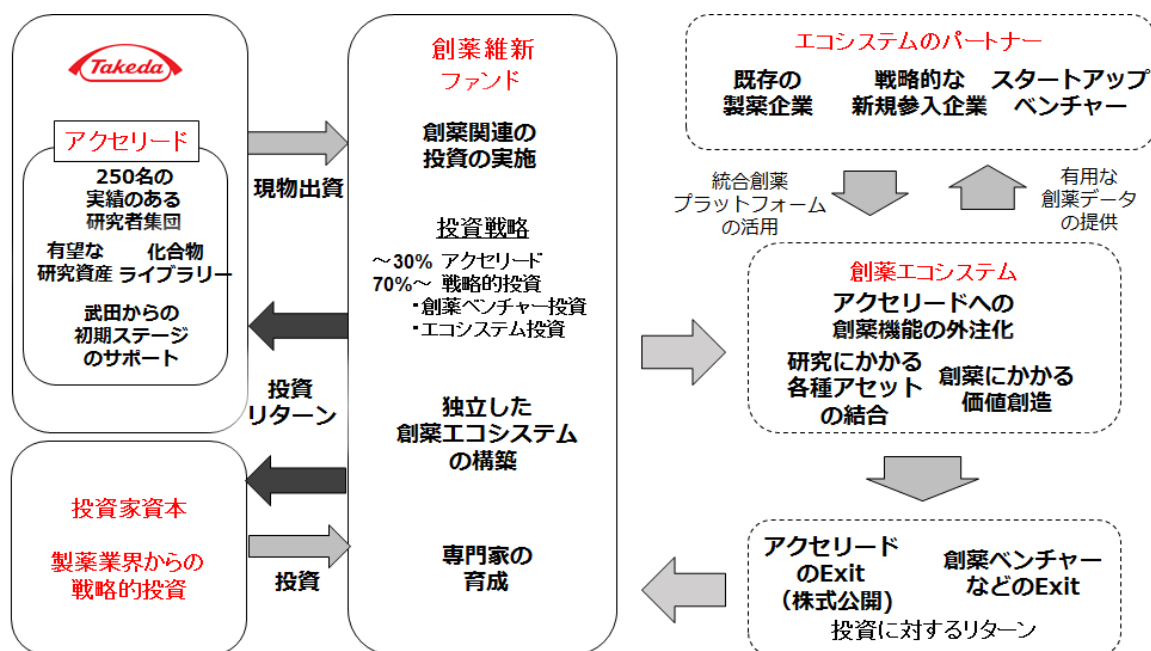


創薬エコシステム「湘南ヘルスイノベーションパーク」における創薬維新ファンドとアクセリートの取り組み

1) 創薬維新ファンドのスキーム



2) 創薬維新ファンドの役割 -日本の製薬業界の諸課題に対する解決策への貢献-

日本の製薬業界は、グローバルファーマと同様に新薬創出のためのさらなる研究開発生産性の向上と製品特許切れによる売上減少からの回復という課題を有しています。また、抗体医薬品に代表される高薬価の医薬品が増加することで今後更なる薬価に対する圧力が高まってくることが予想されます。このような背景から、日本の製薬企業が持続的成長を達成するため、日本以外からの製品導入、企業買収による製品獲得が増加していますが、グローバルファーマと競合するのは、資金面、情報収集能力の差から容易なことではありません。また、日本には優れた創薬研究の種が多くありますが、これらを事業化につなげる仕組み(創薬エコシステム)が上手く機能していないのが現状です。

① ウィズの考える日本の製薬業界における課題とその解決

a. 創薬能力のさらなる向上

日本では創薬研究の様々な課題に対する解決策をワンストップで提供することができる企業はなく、統合的創薬技術プラットフォームの活用に対する強いニーズが存在することが報告されています。このプラットフォームの構築は、特にベンチャーやアカデミアにおける創薬に大きく貢献できることとなります。

b. 研究資産の有効活用

製薬企業では、毎年多くの有望な創薬プロジェクトに優先順位が付けられ、優先順位の低いプロジェクトは中止されることから、中止されたシード化合物が各企業に多く眠っています。これらの化合物の可能性を再検証することで、効率的に創薬につなげることが可能になります。

c. 創薬基盤技術管理の効率化

日本の製薬企業は現在、個々に研究開発資産を維持、管理しています。その中で創薬のスタートの鍵となる化合物ライブラリーの維持管理は、さらに効率化できる良い例だと認識しています。研究開発資産の効率的な投下のためにも、コア機能への絞り込みが重要となってきます。

d. 余剰資金活用の効率化

日本の製薬企業は全体で約 2.5 兆円の現金預金を保有しており、持続的成長に有効なパートナーを見出す努力を続けています。一方で、パートナーに対する評価、いわゆる「目利き」機能は、医薬品のモダリティ(治療手段)の多様化によって、非常に難易度が高まっています。

創薬維新ファンドは、これらの課題解決を目指し、製薬企業、バイオベンチャー、アカデミアを幅広いステークホルダーとし、アクセリードの持つ統合創薬サービスを活用できるエコシステムを構築することによって上記ニーズに応じていきます。すなわち、可能性を秘めた研究資産の事業化を牽引し、日本の製薬企業の有効な投資実行の拡大を実現していきます。

② アクセリードの創薬プラットフォームとしての技術力

2017年7月、武田薬品はアクセリードを医薬品の探索研究から化合物の最適化まで行い臨床試験に橋渡しする日本初のビジネスモデルを保有する会社として創設されました。これは、武田薬品が目指す日本の創薬エコシステム構築に向けて、アクセリードが武田薬品のみならず、製薬企業やバイオベンチャー、大学、公的研究機関の創薬サポートの提供を可能にするためです。

アクセリードは、創薬維新ファンドによる最初の投資先であり、創薬維新ファンドの創薬エコシステムの中核を担います。アクセリードは、創薬エコシステムの中核となりえる重要な3つのアセットを保有しています。

1. 人材: 250名の広範な創薬研究の能力を有した、経験豊富な研究者
2. 研究資産: 自社や他社の創薬に役立つ基盤技術とノウハウ、事業化の可能性のある候補化合物
3. 化合物ライブラリー: アジアで最大の外部に活用できる創薬の種となりえるライブラリー

アクセリードは、上記の自らの人材、アセットを活用し、以下の創薬にかかる広範なサービスをワンストップサービスプロバイダーとして提供します。

a. 統合創薬サービスの提供

長年、武田薬品で膨大な創薬研究により研ぎ澄まされた、創薬ターゲットから化合物の最適化、そしてIND(臨床試験実施申請)までの統合創薬サービスの提供

b. コストの効率化の提供

武田薬品から引き継ぐ化合物ライブラリーに加えて、他の製薬企業の化合物ライブラリーの維持管理を担うことでクライアントのコスト最適化を実現すると共に、顧客に対してのアジア最大の化合物ライブラリーへのアクセスの実現

c. 眠っている研究資産の有効活用の実現

日本の製薬企業内に眠っているリード化合物や技術を分析し、それらの事業開発機会を追求し顧客のニーズに合わせた知的財産権までの育成

d. 創薬エコシステムと投資機会のシナジーの実現

アクセリードは、長年の創薬研究経験による多彩な能力を保有する多くの人材や資産を整備しており、創薬エコシステムの中核を担います。様々な人材や技術のネットワークが産業を活性化することで、多くの投資機会が生み出されますが、創薬維新ファンドがそれらを可能にします。創薬維新ファンドとアクセリードによる人材や技術は、お互いを強化し、創薬エコシステムのシナジーを生み出す多彩な梃子になります。

3) 湘南ヘルスイノベーションパークでの重要な役割

2018年4月、武田薬品は、今まで培ってきた製薬企業としてのノウハウをベースに、製薬企業、政府、そしてアカデミアが集い、革新的な技術を、日本のみならずグローバルの患者さんへのインパクトのある治療につなげていく、オープンでイノベティブなエコシステムの確立を目指して、湘南ヘルスイノベーションパークを開所しました。

湘南ヘルスイノベーションパークは、以下の4つの目標を掲げて活動しています。

- ・ 研究者の革新的なアイデアや技術がビジネスと結びつく場となること
- ・ 国家プロジェクト・自治体プロジェクトが盛んに実施される、垣根を越えた共創の場となること
- ・ 世界が注目する次世代研究のプラットフォームとなること
- ・ 施設内にとどまらず、産業の雇用促進や街づくりと連動する場となること

創薬維新ファンドは、湘南ヘルスイノベーションパークのビジョンの1つであるベンチャー投資機能だけでなく、製薬産業、政府、医療機関、そしてアカデミアのアライアンスを促進する触媒機能の象徴です。創薬維新ファンドは、2020年までに3,000名の研究者が集う湘南ヘルスイノベーションパークのゴールへの貢献を期待され、更には日本政府の産業再生戦略への貢献も期待できます。

また、アクセリードは、この湘南ヘルスイノベーションパークにて事業展開を行い、創薬維新ファンドの投資先や湘南ヘルスイノベーションパークに集う企業群のみならず、全ての顧客にとっての最適な創薬ソリューションプロバイダーとして、ステークホルダーのハブとなり、創薬エコシステムを牽引していきます。

以上